

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- (ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- (や) やさしく 思いやりのある子
- (く) くじけず 最後までがんばる子
- (た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

第一回学校関係者評価委員会

一学期には、学校アンケートへのご協力ありがとうございました。皆様から頂いたご意見を基に、今後の教育活動を検討していきます。また本校では、毎年2回学校評価委員会を行っており、目的は、① 教育活動の成果や課題を明らかにして改善につなげること、② 評価結果の公表するよう努めることによって、保護者や地域住民との連携および協力の推進につなげること、③ 評価の結果を設置者（市）に報告することによって、条件整備等の改善措置を講じることの三点です。この会の委員として小野和明様、平林 勤様、志村 勇様、戸澤 聡様、清水 悟様、竹山真由美様、清水智文様、高部英美様の8名の皆様が、それぞれ地域住民代表、教育関係有識者、保護者代表として、南アルプス市教育委員会より委嘱されています。9月2日に、第一回学校評価委員会として、教職員の自己評価、児童の生活アンケート、保護者の皆様にご協力いただいた学校評価アンケートを基にした話し合いが開かれました。



〔会議で出された主な項目〕

- たくさんの評価項目から課題を見つけ出して焦点化していく必要があること
- コロナ禍において、学校への満足感が下がっていること、友達との関わり合いについて低下していること、地域でも子供が遊ぶ姿が見られないこと、学校だけでなく地域でも子供たちを集めて行事を行うことの難しさなど
- インターネット等におけるトラブルについて
- 地域も都市型が進み、コミュニティ形成が難しくなっていること

日常のほとんどを学校現場で過ごしている私どもにとって、気付かない視点でのご意見を伺うことのできる大切な場にもなります。短い時間でしたが、貴重なご意見を数多くいただくことができました。保護者の皆様から頂いたご意見とともに、真摯にとらえ、今後の学校運営に少しずつでも反映させていきたいと考えております。詳しくは、後日学校ホームページ「学校評価」に載せますので、ご覧ください。

夏の petit 思い出 part2

8月20日に、シットスタジアムで行われた「白根カップ少年野球大会」にお招きいただきました。目の前で行われる子供たちの試合を観戦することは、前任校の若草小で夏の招待試合にお招きいただいて以来4年ぶりのことでした。新型コロナの蔓延に加え、連日の猛暑で子供たちだけでなく保護者の皆様や指導者の皆様も大変だったことと思います。汗びっしょりになりながら、全力でプレーする子供たちを見ていて、勝敗を超えた感動を覚えました。間もなく学校でも運動会の取組が始まります。1日も早く、何も気にせず自由に運動やその他の活動ができるようになる日が来ることを祈っております。やはりスポーツ観戦は、自然に熱くなるものですね。陸上競技の好きな私は、この夏「世界陸上」を連日堪能しました。反して、自分の体力が悲しいくらい衰えていくことに 年々愕然とさせられる今日この頃です。



らせん階段のように・・・

ある大学の法学部、世界史の入試問題で、こんな問題が出されたそうです。

「A国とB国は同盟国です。C国がA国に戦争を仕掛けてきました。そこでA国は条約にのっとってB国に応援を求めました。あなたがB国の首相だとしたら、どのように対応しますか。過去の事例をあげながら考えを述べなさい」という問題です。なかなか難しく感じます。世界史の中で、戦争と同盟関係をきちんと把握していなければならないだろうし、その上で自分の考えを論述しなければならないのです。

この問題には、こうでなければならないという正解はないということですが、不正解はあるのです。「戦争をする」という結論だけは、不正解なのだそうです。つまり0点です。そもそも学校で何を学ぶのかというと、「あらゆる紛争やトラブルを平和的に解決する方法を学ぶのだ」ということです。歴史を学ぶということは、過去の失敗例を学びながら、よりよい解決方法を考えることだそうです。ましてや、法学部の入試問題なのです。戦争やもめごとを未然に防ぐのが法律なのですから、結論が戦争であってはならないということなのです。



子供たちの世界には、様々なトラブルがあることでしょう。大人になっても、地域や職場などで問題が発生することもあります。その時に「けんか」ではなく、また力の強い者だけが発言力を持つのではなく、平和的に解決しなければなりません。その方法を学んでいる大切な場の一つが、「学校」ではないでしょうか。子供たちに、何が何でも「けんかをするな」と言っても無理なことです。むしろ、よい経験になることもあります。けんかになっても、殴り合いなどはせず、「話し合い」や「仲介者」の介入等で平和的に解決できる力を身に付けていってほしいと思います。



加えて、「歴史は繰り返す」という言葉があります。「同じことの繰り返しではなく、少しずつ進歩しての繰り返しである」ということを耳にすることもあります。戦争の歴史を考えると、人類は同じ過ちを繰り返しているように思えます。兵器が進歩するに従い、犠牲者が増えている場面も見られます。ただ、見方を変えるとベルリンの壁がなくなったり、核兵器の廃絶を国家目標にする国が現れたりするなど、戦争を避ける風潮も見られます。そうは言っても、一般市民まで犠牲になっている戦争が起きていることは事実です。こうしている間にも、国家間の紛争や内戦によって、尊い命が失われていることも事実です。同じ過ちをそのまま繰り返すのではなく、必ず進歩のもとに収まることを祈っております。

「歴史は繰り返す」を、私たちの生活に置き換えてみると、1年の繰り返しも同じことになるのではないのでしょうか。昨年の1年間と今年の1年間は、同じことの繰り返しではいけないのです。「らせん階段」のように、真上から見ると同じ円をくるくる回っているように見えても、横から見ると少しずつステップアップしているように・・・。人間は食べて寝ていれば毎日が過ぎ、1年がたち年を重ねます。でも、常に昨年とは違う自分というものを目標にしたいものです。



学校教育も同じことをやっているように見えるかもしれませんが、評価により私たちは常に成果や課題を振り返り、昨年度とは違う一歩を見つけながら進めています。ぜひ子供たちの成長とともに学校の成長のためにも、かわらぬご支援・ご協力をお願いいたします。